

Teacher's Voice

個人面談を通じて、進路以外にも興味を持っていることなどをできる限り聞き出す。まずは生徒との信頼関係を築き、指導体制を確立させる。

〔1年生〕

「今からはじめれば特別なことをしなくても十分目標に手が届く」という話や、「普通の授業や家庭学習こそが力になる」という話をする。

授業において、「数学は答えがあればよい」という考え方を改め、論理を組み立てることの大切さに気付かせるよう、強調している。

「この時期は、人間的にも学力の上でも最も腰を据えて力をつけられるとき。つまり目標実現を達成できるか否かを左右する重要な時期である」と、常に言い伝えるようにしている。

「中だるみになりがちな学年だが、ここで頑張れば差をつけることができる。3年になったらみんな勉強をがんばるので、並大抵の努力では成績は上がらない」と声をかけている。

〔2年生〕

「この1年は3年生への準備期間。意識を切り替えることが必要。また、部活動等でも主力になっていくので、さまざまな活動に対して全力で取り組むことが大切」と伝えている。

中高一貫校の高校2年生に対して「高校2年というと真ん中の学年だと思うかもしれないが、中高一貫5年目と考えてみよう。小学校で5年生といったら、高学年。この6年間のまとめについて考えなければならない時期だよ。そろそろ本気だして頑張ってみよう」と声を掛けてみました。割と反応は良かったです。

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

「年度当初に、これからの1年間の意識付けを図るために、生徒にどのような声かけや指導を行っていますか」

〔3年生〕

4月に各学年で面談期間を設定している。個人的には、3年次の4月に2年次の模擬試験の結果から分野別の得意・不得意を生徒に示し、学習の方向性を示すことにしている。

「1年後の今頃は大学生で、キャンパスを歩いているんだよね。」というも話しています。イメージさせることで、意外とやる気が出る生徒は多いです。

4月下旬に半月間、生徒理解旬間を設けています。新しい担任・副担任と面談を行い、目標の確認や設定を主としています。この面談においては、とにかく「夢実現」を目指すように伝えていきます。

生徒間の支え合いで「やれば、できた!」という経験を多く積みさせる一方で、あえて突き落とし、失敗もさせること。私自身が生徒にとっての「敵」となり、生徒が「なにくそ!」と思えるようにしかけることなどに心がけている。

「10年先の自分が輝いているためには、どの時点までに何をすべきか」を考えるように指導しています。各自の目標と、その目標達成のためのスケジュールを本気で考えさせることが大切なのです。

この時期の面談においては、アドバイスをするよりも、行きたい大学を徹底して調べ上げるように指導しています。「志望大学の校歌を日頃から聞くのもいい」と言ったこともあります。